

海岸工学委員会
081112, 富山国際会議場
議事録: 山本泰司

栗田委員→小野委員(港湾局)

- 前回議事録の確認
- 報告事項、委員の交替、CERC報告(水口相談役)
- 第55回海岸工学講演会の実施状況について(由比)
- 海岸工学論文集第55巻 刊行について(間瀬) 定価5000円、著者負担金 2.5万円
- 海岸工学論文賞候補論文について(間瀬、青木) 海岸工学論文集・CEJ投稿料
- 編集小委員長の交替、来年度以降の出版形態(佐藤、間瀬)
- 第56回及び第57回海岸工学講演会の開催(会場など)について(横木、後藤)
- Coastal Engineering Journal について
 - ・ CEJ賞(水谷)、投稿状況(柴山)、英文論文集(水谷)、JAMSTEC中西記念賞(5万円/年、佐藤)
 - ・ CEJ発刊の持続策
- 研究小委員会等の活動について(沿岸域、津波、数値波動、温暖化適応策、広報各小委員長)
 - ・ 重点研究課題の進捗状況(津波小委:今村)
- 第46回水工学に関する夏期研修会(Bコース)開催について(今村、藤原)
- その他
 - ・ 会長特別委「地球温暖化特別委」報告
 - ・ 国際侵食学会(東京、11月5-7日)
 - ・ Apac 2009(Singapore, 2009年10月) **アブストラクト12月31日**
 - ・ Coastal Dynamics 2009(虎ノ門パストラル、2009年9月7-11日) **アブストラクト12月22日**
 - ・ Breakwaters(2009 Sep 16-18, Edinburgh)
 - ・ [セミナーの後援について](#)(産総研の瀬戸内海水槽)

海岸工学論文集第55巻について

第1段審査投稿論文数 389編

第1段審査通過論文数 305編

第2段審査投稿論文数 297編

(投稿辞退論文6編, D判定論文1編, 二重登録論文1編)

最終論文数 294編

(投稿辞退論文1編, D判定論文2編)

海岸工学論文賞(2008年度)

(130) 特性の異なる二つの台風による天竜川河口砂州の大規模変形

田島芳満 高川智博 浅野泰史 佐藤慎司 武若聡

(190) 防波堤マウンド法先部被覆ブロックの被災メカニズムの検討

有光剛 安岡恒人 川崎浩司

(224) PHSIモデルによるサンゴの生息環境評価と自然再生計画の策定

安芸浩資 中野晋 盛治夫

査読者ごとの評価平均点

絶対評価ではあるが、
第一段は平均3.5点
第二段は平均14点
になるよう査読者ごとに調整してもらおう

来年度の編集・出版形態

- (1) 二段階査読を維持，3月アブスト受付 - 10月出版
 - (2) 二段階ともに電子査読化，主査制の導入
(主査 = 幹事，副査 = 編小委非幹事 + 第一段査読者)
 - (3) 査読小委を廃止し編集小委に一本化，最終判断は幹事会の責任
 - (4) 校正は著者校正1回のみ  **J-Stage** (+ 土木学会図書館) で提供可能
 - (5) **電子ジャーナル実現**まで現在の品質での出版 (カラー不可) を維持
 - (6) 編集小委内に，電子査読WGと出版形態WGを設置
後藤, 武若, 森 間瀬, 重松, 小林, 佐々木, 八木
 - (7) 海岸工学論文賞 (3編程度) を創設，受賞論文はC E J に推薦
 - (8) **技術委託費約50万円 / 年以下を想定**  委託先の対応がやや不安定なものの、土木学会論文集のシステムの半額以下で継続可能
(株)ジュオン
- 11月の講演会 (委員会承認後) に概要をアナウンス

J-Stageについて

[土木学会の出版物](#)

[構造工学論文集](#)

[リスト](#)

[検索](#)

[構造工学論文集投稿要領](#)

査読：4000円

PDFチェック：12,000円

アップロード：4,000円 7,000円

来年度出版形態の提案

現在の形態を維持(モノクロ, CD なし)

現在の形態(モノクロ) + CD

カラーPDF印刷 + CD(著者のファイルをそのまま用いる)

2頁アブストラクト(第1段審査で用いたもの)をカラーPDF印刷 + CD
(著者のファイルをそのまま用いる)

-1 2頁アブストラクト(著者名、所属が必要なのでその分修正する)をカラーPDF印刷 + カラーPDFのCD

-2 2頁アブストラクト(著者名、所属が必要なのでその分修正する)を白黒PDF印刷 + カラーPDFのCD

-3 本論文(最終原稿)1ページを白黒PDF印刷 + カラーPDFのCD

-4 目次(タイトル、著者)を印刷 + カラーPDFのCD

カラーPDF のCD のみ(著者のファイルをそのまま用いる)

幹事会での方向:

著者の原稿使う(pdf化)

印刷物なし(会議での配布物を考慮)

電子原稿(カラー, 検索容易, 世の中の趨勢)

J-Stage の活用を視野に入れる

第56回海岸工学講演会の開催について

実行委員会： 委員長 三村信男(茨城大学) (茨城大学 横木裕宗)

横木, 信岡(茨大), 武若, 庄司(筑波大), 栗山(港空研), 諏訪(国総研), 中島(鹿島港湾), 中山(水工研), 半沢, 松本(不動テトラ), 関本, 金山(五洋), 松浦, 丹, 山中(茨城県)

日程および会場

日時: 2009年11月18日(水) ~ 20日(金)

前日11月17日に見学会(午後)とシンポジウム(夜)を予定

会場: 茨城県立県民文化センター(茨城県水戸市)

(小ホール(460), 集会室(150, 120, 100, 60)の5会場
+ 集会室(10, 10, 24), 展示場)

見学会

茨城県の海岸(南部(ヘッドランド事業), 北部(阿字ヶ浦, 常陸那珂, 河原子))で2コースを検討中

予算

会場費(概算): 450,000円

機材借り上げ: 320,000円, 見学会実施: 200,000円, アルバイト: 600,000円,

事前シンポ経費: 200,000円, 委員会開催費(弁当): 130,000円,

その他: 100,000円

合計 = 約2,000,000円

助成金制度なし

今後の検討事項

予算の精査, 懇親会の会場

Report

COASTAL ENGINEERING JOURNAL

Volume 50 · No. 2 · June 2008
CONTENTS

Statistical Modeling of a Pressure Gradients on a Barred Beach.....123

T Suzuki, S Shin, N Mori and D T Cox

Numerical Modeling of Wave Transformation on Muddy Coasts.....143

M Soltanpour, A Oveysy and T Shibayama

Takagi-Sugeno Fuzzy Approach in Rock Armored Slopes for 2% Wave Runup
 Estimation.....161

T Erdik and M E Savci

Development of CMPS Method for Accurate Water-Surface Tracking in Breaking
 Waves.....179

A Khayyer and H Gotoh

Tsunami Scour Around a Square Structure.....209

T Nakamura, Y Kuramitsu and N Mizutani

Volume 50 · No. 3 · September 2008

CONTENTS

- Longshore Migration of Shoreline Mega-cusps Observed with X-band Radar.....247
E M. Galal and S Takewaka
- Modeling of Mud Accumulation and Bed Characteristics in Tokyo Bay.....277
T Rasmeemasmuang and J Sasaki
- Parameterization of Wave Attenuation in Muddy Beds and Implication on Coastal Structures.....309
R. Rajesh Kumar, A Raturi, B. Prasad Kumar, A Bhar, D.Bala Subrahmanyam and F Jose
- Time-varying Tsunami Ability of Coastal Forests Based on Forest Growth Models.....325
T Asano
- A Turbulent and Suspended Sediment Transport Model for Plunging Breakers.....349
B Ontowirjo and A Mano

Volume 50 · No. 4 · December 2008

CONTENTS

A Numerical Model on the Interaction Between Nearshore Nonlinear Waves and Strong Currents.....369

Y Tian and S Sato

Wave Setup and Longshore Currents Induced by Directional Spectral Waves: Prediction Formulas Based on Numerical Computation Results.....397

Y Goda

Investigating the Length of Scale Model Tests to Determine Mean Wave Overtopping Discharges..... 441

M T Reis, M G Neves and T Hedges

Response Characteristics of a Discus Shaped Data Buoy in Nonlinear Waves.....463

R Balaji, S.A. Sannasiraj, and V Sundar

Author Index.....491

2006年：国内 6海外24 (Australia 1, China 4, India 2, Iran 2, Italy 2, Korea 3, Kuwait 1, Portugal 1, South Africa 1, Taiwan 2, Thailand 2, UAE 1, USA 1, Vietnam 1)

2007年：国内 20海外25 (Australia 1, Bangladesh 1, China 1, India 5, Indonesia 1, Iran 1, Korea 5, Netherlands 1, Poland 1, Spain 1, Taiwan 1, Thailand 1, Turkey 3, USA 2)

2008年：国内 9海外26 (Canada 1, China 1, China(Hong Kong) 1, Greece 1, India 3, Indonesia 1, Iran 3, Korea 1, Malaysia 1, Netherlands 1, Poland 1, Thailand 1, Turkey 4, USA 6)

購読状況(2007年9月末日現在) Total 141

日本 50, USA 21, Netherlands 17, UK 9, China 7, Taiwan 5, Italy 5, Australia 4, France 3, India 3, Korea 3, Spain 3, Canada 2, Denmark 1, Germany 1, Iran 1, Malaysia 1, Norway 1, Poland 1, Portugal 1, Singapore 1, Thailand 1)

テクニカルノート

Technical note : Technical notes present original and practically useful information, or concisely presented research results. Maximum page is 10pages in final format.

編集方法の変更

Proposal for Switching CEJ Review to Editorial Manager

Dr. Mori

CEJ Awardの選考
候補論文について
題名・著者

Improvement in Calculation of Resistance Force
on Caisson Sliding due to Tilting

Authors: Miguel Esteban, Hiroshi Takagi and
Tomoya Shibayama

Coastal Engineering Journal, Vol. 49, No. 4
(2007) 417-441

JAMSTEC中西賞

故 中西俊之博士

約700万円の遺産を「海洋工学や海洋技術の推進
や発展」のために寄付

海洋工学会に加盟する学会(土木学会、日本沿
岸域学会など)に賞金5万円/年

平成21年度から10年以上は継続可能

海洋開発委員会と調整した結果、CEJ賞の賞金に
充てる方向

「津波被害推定ならびに軽減技術研究小委員会」

委員長：今村文彦 副委員長：菅野高弘・富田孝史

幹事長：藤間功司

委員数：61名

期間：2003.7~2009.6

活動概要

1) 目的

2004年12月にスマトラ沖地震・インド洋津波による大災害が発生し、我が国においても南海トラフでの地震および津波の被害が懸念される中、被害推定や軽減技術の開発は不可欠の検討項目となっている。本小委員会では、土木学会での横断的な組織を作り、津波予測技術の開発（発生：地震、地滑り、伝播、遡上）、被害推定・軽減技術（浸水域、流体力、家屋強度、インフラ、避難・情報）の開発を進める枠組みをつくることとする。

2) 活動概要

各メンバーは以下の分科会に所属（複数可）し、研究テーマを実施する。

第1分科会「波力」（主査：藤間功司）；第2分科会「土木構造物の津波防災デザイン」（主査：富田孝史）；第3分科会「土砂移動モデル」（主査：高橋智幸）；第4分科会「漂流物」（主査：水谷法美）；第5分科会「被害」（主査：越村俊一）；第6分科会「防災教育」（主査：原田賢治）；第7分科会「調査体制」（主査：今村文彦）

平成19年度活動報告

1) 委員会・WG活動等

・第1回委員会 H19/5/22(火) 土木学会にて

今後の研究テーマの募集，ソロモン諸島津波調査報告

・第2回委員会 H19/8/1(水) 海運クラブにて 新WGの決定

WG1(主査：藤間)：波力(実験データの整理と各理論やモデルの適用範囲)

WG2(主査：富田)：土木構造物の津波防災デザイン(橋，道路，鉄道，河川，下水処理場，発電所など)

WG3(主査：高橋)：土砂移動モデル(侵食と堆積)

WG4(主査：水谷)：漂流物の評価と対策

WG5(主査：越村)：直接被害(被害関数)と間接被害(復旧に長期間必要)，環境への影響評価(生態系の破壊，油汚染など)

WG6(主査：原田)：防災教育(教材の出版)とアンケート調査

WG7(主査：今村)：調査体制

・第3回委員会 H19/11/8(木) 宮崎観光ホテルにて 新WGの活動報告など

2) 行事等

・ACECC津波TC 第4回アジア土木技術国際会議Special Forum(H19/6/26 台北)

平成20年度活動計画

1) 委員会・WG活動等の予定

委員会を3 - 4回程度行なう予定。7つのWGに別れ、それぞれの研究を実施。

平成20年度「重点研究課題（研究助成金）」申請書

代表研究者名：原田賢治(人と防災未来センター,主任研究員,32)(参画委員数:合計 13名)

(所属機関,役職,年齢を併記のこと)

研究課題名：津波防災教育体系の確立

研究の体制:

(所属機関,役職,年齢を併記のこと)

今村文彦(東北大学,教授,46)

富田孝史(港湾空港技術研究所,上席研究官,42)

原田賢治(人と防災未来センター,主任研究員,32)

諏訪清二(兵庫県立舞子高校,教諭,47)

安倍祥(社会安全研究所,研究員,28)

中野晋(徳島大学,准教授,52)

阿部郁男(東北大学工学研究科,共同研究員,40)

岡安章夫(東京海洋大学,教授,46)

藤間功司(防衛大学校,教授,47)

越村俊一(東北大学,准教授,35)

舩木伸江(神戸学院大学,講師,31)

後野正雄(大阪工業大学,教授,51)

山本吉道(東海大学,教授,51)

必要経費:合計 1,000 千円

80万円

内訳

人件費 : 0千円(内容)

資料費 : 0千円(内容)

調査費 : 0千円(内容)

旅費交通費: 600千円(内容:ワークショップ・打ち合わせ交通費他)

消耗品費 : 150千円(内容:ワークショップ関係文具他)

通信費 : 0千円(内容:)

印刷製本費: 200千円(内容:津波防災教育コンテンツ印刷費他)

借料・損料: 50千円(内容:会議室料他)

『水工学に関する夏期研修会講義集』 土木学会図書館・インターネット上の公開について

水工学に関する夏期研修会講義集

水工学委員会と海岸工学委員会が協力して作成

水工学委員会

「土木学会会員への限定公開は発行後 1 年を経たもの，一般公開は3年を経たもの」という土木学会の方針に沿って公開することを決定済み．
海岸工学委員会の同意を待っている．

海岸工学委員会

(案) 水工学委員会と同じ条件で公開する

これからの手順

2008年 9月25日 幹事会 報告・確認済み

2008年11月12日 委員会 水工学委員会・図書館に報告

1. メンバーの交代

退任： 有川委員(港湾空港技術研究所), 小林委員(岐阜大学)
 島谷委員(五洋建設), 村上委員(宮崎大学)
 横木委員(茨城大学)

新任： 山田浩次委員(国土技術政策総合研究所, 2008年9月)
 沖和 哉委員(京都大学, 2008年10月)

メンバー 武若 聡(筑波大学), 森 信人(京都大学)
 荒木進歩(大阪大学), 沖 和哉(京都大学)
 加藤 茂(豊橋技術科学大学), 川崎浩司(名古屋大学)
 木原直人(電力中央研究所), 山田浩次(国土技術政策総合研究所)

2. 作業中の案件

- ・ 海岸工学データベースの海岸工学委員会サーバへの移設
- ・ 海岸工学データベース項目追加の検討
 - 土木学会インターネット図書館へのリンク情報の追加
- ・ 海岸災害情報の収集に関する検討

地球温暖化適応策検討小委員会活動報告

(小委員長 横木裕宗)

1. 活動状況報告

(1) 第1回委員会 (2007年12月8日13:00～17:00 於東京大学工学部1号館, 28名出席)

話題提供: (1) IPCC第4次報告書の概要(横木), (2) 海岸保全技術の技術上の基準(栗山, 福濱), (3) 港湾施設の技術上の基準(河合, 関本), (4) 適応策の考え方(磯部)

(2) 第2回委員会 (2008年2月9日13:00～17:00 於東京大学工学部1号館, 34名出席)

話題提供: (1) 気候変動に対する海岸保全施設の戦略的対応に関する一考察(岡安), (2) 地球温暖化と津波(松富), (3) 海岸事業制度の概要(印藤), (4) 水関連災害分野における地球温暖化に伴う気候変動への適応策のあり方について(泊)

メンバー, 議事録はウェブページで公開(広報小委員会へ依頼)

(3) 第3回委員会 2008年11月14日開催予定

2. 温暖化特別委員会との連携

(1) 適応策小委(特別委)の中間報告書の回覧

(2) 幹事会開催(10/29) 第3回委員会で報告

課題の整理・方向性の議論

海岸工学委員会からの提言案作成(予定)

地球温暖化対策特別委員会報告

横木裕宗(リエゾン幹事)

委員会構成と幹事会構成

3つの小委員会(温暖化影響(三村),緩和対策(花木),適応策(山田))

地球環境委員会委員と幹事

+ 関連委員会からの推薦(海岸工学委から横木)

適応策小委員会には,海工委の適応策小委の横木,小林,関本,中山,岡安の各委員が参加
アドバイザー会議(委員長(会長),小委員長,

幹事長(地球環境委員長),アドバイザー)

経過

シンポジウム開催(7/2)

地球環境シンポジウムにて企画セッション(8/30,岡山大学)

調査研究委員会での地球温暖化問題に関する活動の紹介、土木学会における地球温暖化問題の
取り組みに対するパネルディスカッション

環境工学(藤原),環境システム(原沢),水工学(山下),海岸工学(横木),海洋開発(関本),エネ
ルギー(清水),コンサルタント(真鍋),土木計画学(室町),地球環境(米田)

全国大会 研究討論会(9/10,東北大学)

石井弓夫、三村信男、花木啓祐、沖大幹

英文パンフレット作成

中間報告書について

3小委員会から原稿 ホームページ

中間報告掲載ホームページ <http://risk.env.kyoto-u.ac.jp/globalenv>

ID:global パスワード:env

最終報告書(500部)・要約リーフレット版(2000部:日本語,1000部:英語)

3小委を組み直して,最終報告書WGを作り対応する。(予定)

水工学に関する夏期研修会 (Bコース)

年度	開催場所	テーマ
1999	北九州	海岸工学における「波動問題」
2000	東京	新海岸法のもとでの海岸保全技術
2001	山形	流域・海域の土砂環境 (総合)
2002	京都	沿岸域の防災
2003	岡山	海域施設の性能評価技術と新しい設計法
2004	釧路	流域と沿岸域の水環境 (総合)
2005	松山	沿岸浅海域の環境保全・修復
2006	岐阜	沿岸防災 - 津波・高潮を中心に -
2007	福岡	海岸工学における数値計算とモデリング
2008	東京	気候変動の海岸防災への影響
2009	福島	? (8月3日の週)
2010	?	?

検討事項

- テーマ
- テキストの配布について (事前配布, CD-ROM?)
- 事前質問受付など

APAC2009 in Singapore

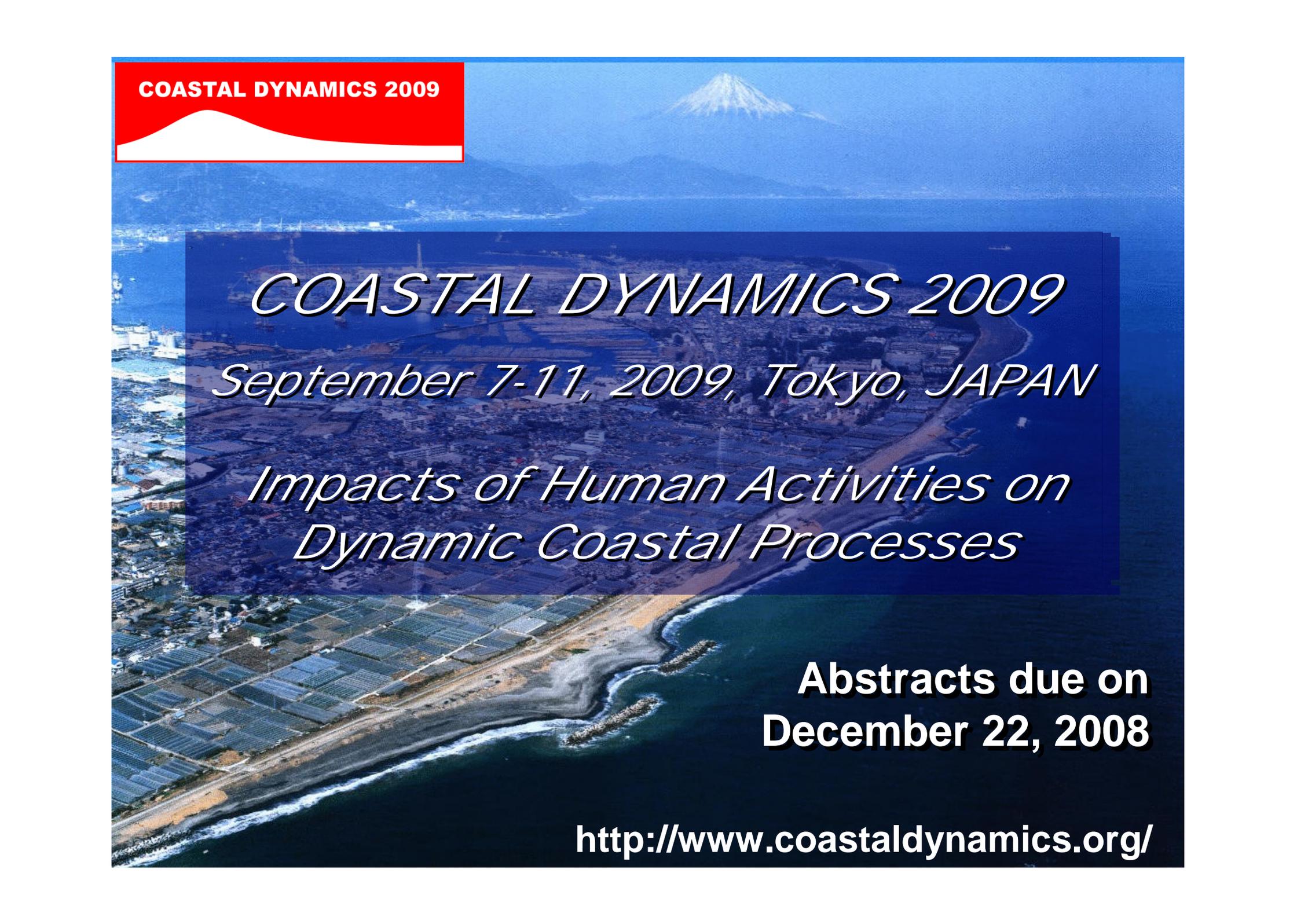
Call for abstracts: 19th of September 2008

Deadline of abstracts: 31st of December 2008

Conference: 13th-16th October 2009

12月22日までにCoastal Dynamics2009のアブストラクトを、
12月31日までにAPAC2009のアブストラクトを率先して投稿
するようにお願いします。

<http://www.apac2009.org/>

An aerial photograph of a coastal city, likely Tokyo, Japan, with a large mountain (Mount Fuji) in the background. The image is overlaid with a dark blue semi-transparent box containing text. In the top left corner, there is a red banner with white text.

COASTAL DYNAMICS 2009

COASTAL DYNAMICS 2009

September 7-11, 2009, Tokyo, JAPAN

*Impacts of Human Activities on
Dynamic Coastal Processes*

**Abstracts due on
December 22, 2008**

<http://www.coastaldynamics.org/>